

《ご退職の先生からのメッセージ》

みんなドングリの背比べ

There Is Nothing Much to Choose Among Us,
Because We Are All Much of a Muchness

河東 仁

KAWATO Masashi

ドングリは、クヌギを初めとしてアラカシ、カシワ、コナラ、ブナ、ミズナラなど22種類もの樹の実であり、新座キャンパス正門の歩行者門に入って左側にあるマテバシイの実もドングリである。それだけに一つ一つに個性があり、大きさも形状や色合いも異なる。しかしそれらの差異は、優劣の問題とは何ら関係がない。

教職員をドングリに例えるのは失礼かもしれないが、その一員として、コミ福を構成する教職員の間、個性の違いはそれぞれあっても、優劣の差などないと断言したい。もし差があると思う人があったら、それは明らかに勘違いである。

まさしく三島由紀夫が、『豊饒の海』第四巻の『天人五衰』において、『誰一人人間は「選ばれて」なんかこの世に生れて来はしない』、『私が見るところでは、あなたはきつと〔選ばれし者の〕偽物だわ』、少なくとも『昆虫で云へば擬きもどの亜種のやうなもの』と、久松慶子に言わせている通りである。

しかし当然のことながら、コミ福には、そうした擬きなど一人もいない。みんな学生ファーストの思いで、研究・教育に勤しんでいる。それだけにコミ福がいつまでもこのままであって欲しいと心から願いながら、2020年3月31日をもって退職してゆく。

学生、そして教職員の皆さま、幸せて豊饒な出会いと別れのおよび時間をいただき、心から感謝いたします。